

中学生のための「流れ図」

※3 研修部 金 沢 義 夫

私は小6まで $\frac{1}{3} + \frac{1}{4} = \frac{2}{7}$ と答えていました。 $\frac{7}{12}$ になる
 リクツが うどん粉 → タコ → うどん粉 → タコ焼でき
上り というようにソクソクと頭に入ってこなかったの
 です。ですから友人のように鉛筆をけずって立像を作ること
 などは、とても出来ませんでした。気がついてみると鼻か
 左足を忘れていたからです。

もし、私のように立体的にものをあつかうのが不得意な
 方がいたら、この「流れ図」による考え方をすすめしよ
 うと思います。



約束と順序は、人間が動くときのかじのように、大切な
 ものです。

さて「流れ図」にも約束があります。

その3つのねがいを聞いて下さい。

そのひとつめ： 楕円

「流れ図」のはじめとおわりにある記号です。これ
 が流れ図の特長のひとつです。

端子記号とよびます。

そのふたつめ： 長方形

この枠のなかで仕事をします。計算もするところ
 です。これが特長のふたつめです。

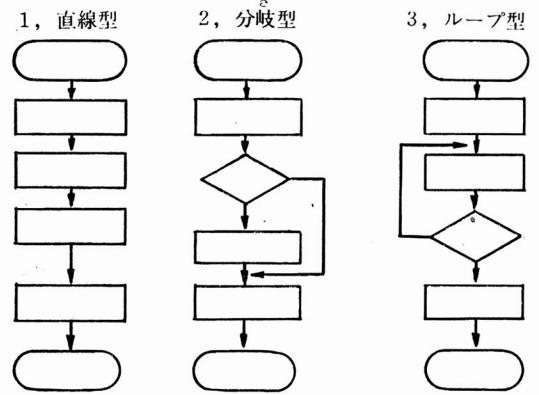
処理記号とよびます。

そのみっつめ： 菱形

イエスカノーか、大きい小さいかなどをたずねる
 ところです。これがみっつめの特長です。

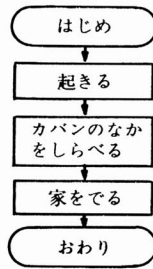
判定記号とよびます。

この3つの記号で、専門の人でさえ足がかりとしている
 基本の型がつくられています。



そこで、記号のつかい方をしらべることにしましょう。

のつかい方



のなかには

初め-----終り

スタート-----ストップ

などと書き入れます。

途中のことがらには関係なく、
 かならず上と下の2個所にこの
 記号がつかわれます。

のつかい方



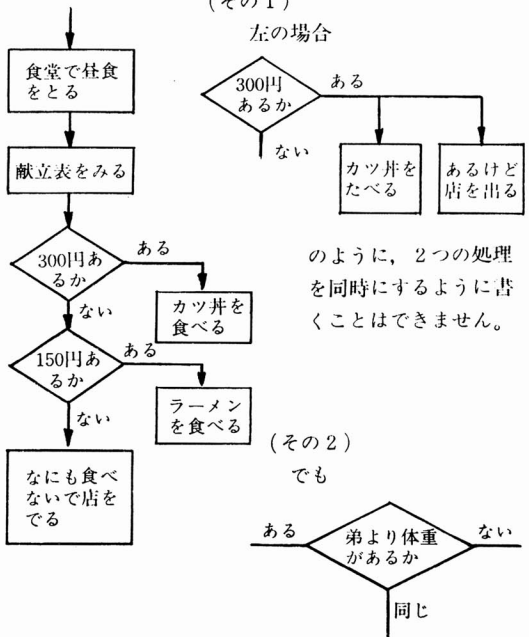
「～をする」ということがらと
 か、作業のしかたを

時計をみる

A×B-Cの計算

などと、長方形のなかに書き入
 れます。

のつかい方



のように、3つに分岐してもよい場合もあります。